

## 第96回

# トラック運送業界の景況感（速報）

平成28年10月～12月期

---

---

平成28年10月～12月期の業況判断指数（日銀短観12月）は、非製造業で運輸・郵便業等が改善したものの、個人消費の回復が脆弱で小売業等が悪化したため横ばいとなった。一方で製造業は11月の米国大統領選におけるトランプ候補勝利後、米国内の経済成長への期待感による円安効果等が寄与し、1年半ぶりに改善した。

このような状況において、トラック運送業界の10月～12月期は、輸送数量や実働率、実車率が大幅に改善した。さらに燃料価格の下落が寄与したことにより、営業利益及び経常利益も大幅な改善となった。

そのため、景況感の判断指標は▲12.8となり、前回（▲30.1）から17.3ポイント改善した。なお、来期の見通しとなる景況感の判断指標は、OPECの減産合意による原油高の懸念やドライバー不足等を反映し、今回より11.6ポイント悪化して▲24.4の見通しとなっている。

---

---

平成29年2月10日

公益社団法人 全日本トラック協会

## 1. 今回（平成28年10月～12月期）の状況

### ① 概況

平成28年10月～12月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は17.0%（前回11.2%）、「悪化」とした事業者は28.4%（前回37.9%）で、判断指標は▲12.8となり、前回（▲30.1）から17.3ポイントの改善となった。

### ② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が28.4%、「増加」とする事業者が23.0%で、判断指標は▲7.3となり、前回（▲16.8）から9.5ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が30.2%、「増加」とする事業者が25.2%で、判断指標は▲7.0%となり、前回（▲16.3）から9.3ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が29.1%、「増加」とする事業者が21.9%で、判断指標は▲9.5となり、前回（▲11.9）から2.4ポイント改善した。

### ③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が21.6%、「増加」とする事業者が37.8%で、判断指標は16.2となり、前回（▲23.3）より39.5ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が27.0%、「増加」とする事業者が40.5%で、判断指標は13.5となり、前回（▲10.0）よりも23.5ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が24.3%、「増加」とする事業者が29.7%で、判断指標は2.7となり、前回（▲3.3）よりも6.0ポイント改善した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が34.0%、「増加」とする事業者が24.5%で、判断指標は▲9.4となり、前回（▲26.0）から16.6ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が37.7%、「増加」とする事業者が20.8%で、判断指標は▲17.0となり、前回（▲14.0）から3.0ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が26.4%、「増加」とする事業者が26.4%で、判断指標は1.9となり、前回（▲10.0）から11.9ポイント改善した。

### ④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は一般貨物▲2.7（前回▲4.1）と1.4ポイント改善、宅配貨物は▲8.1（前回6.7）と14.8ポイント悪化、宅配以外の特積貨物は7.5（前回8.0）から0.5ポイント悪化となっている。

### ⑤ 実働率等

実働率は▲3.7（前回▲16.0）と12.3ポイント改善、実車率は▲3.3（前回▲14.1）となり10.8ポイント改善となった。

雇用状況（労働力の過不足）は77.3（前回71.8）と5.5ポイント上昇し、不足感が強くなった。採用状況は▲6.6（前回▲11.5）で4.9ポイント増加し、所定外労働時間は▲2.4（前回▲11.7）と9.3ポイント増加している。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は0.4（前回▲10.8）で11.2ポイント増加となった。経常損益は▲1.8（前回▲13.3）となり、指標は11.5ポイント改善となった。

## ⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は▲2.2（前回▲22.6）と20.4ポイント改善、中規模事業者は▲10.6（前回▲26.6）となり、16.0ポイント改善、小規模事業者は▲20.0（前回▲38.6）と18.6ポイント改善となっている。

一般貨物における主な取扱い品目別については、消費関連貨物は▲8.7（前回▲25.4）と16.7ポイント改善、建設関連貨物は2.7（前回▲30.1）と32.8ポイント改善、機械関連貨物は▲27.3（前回▲24.7）と2.6ポイント悪化しており、その他貨物は▲19.9（前回▲36.9）と17.0ポイント改善している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、北海道、関東、北陸信越、中部、近畿、四国は水準を上げているが、九州はほぼ横ばいである。

## 2. 今後（平成29年1月～3月期）の見通し

### ① 概況

平成29年1月～3月期の見通しについて、業界の景況感の判断指標は▲24.4で、今回から11.6ポイント下げる見込み。

### ② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量はほぼ横ばい、営業収入はやや悪化、営業利益は悪化の見込みである。

### ③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量、営業利益は悪化、営業収入はやや悪化の見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量はほぼ横ばい、営業収入はやや改善、営業利益は悪化の見込みである。

### ④ 運賃・料金水準

一般貨物はほぼ横ばいの見込み、宅配貨物は僅かに低下、宅配以外の特積貨物はやや低下の見込みである。

### ⑤ 実働率等

実働率、実車率はやや悪化の見込みである。雇用状況（労働力の過不足）は指標の水準を上げ、不足感が強まる見込みである。採用状況はほぼ横ばい、所定外労働時間、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はやや悪化、経常損益は指標の水準を下げる見込みである。

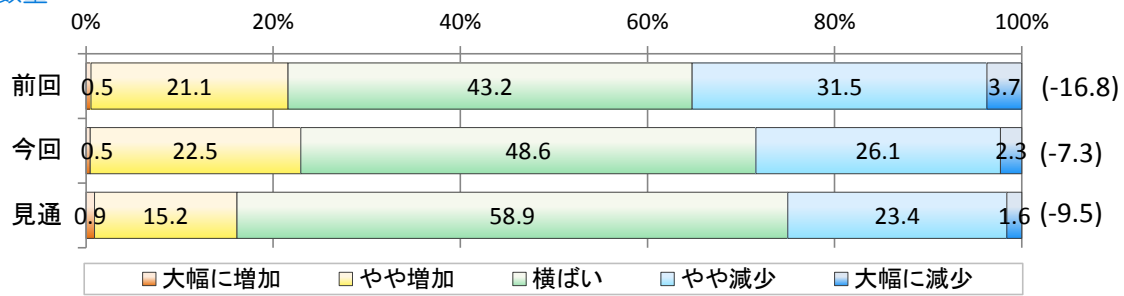
## ⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者、中規模事業者においては悪化、小規模事業者においてはやや悪化の見込みである。

一般貨物における主な取扱い品目別では、消費関連貨物、建設関連貨物、機械関連貨物は水準を下げ、その他貨物はやや悪化の見込みである。一般貨物における地域別では、北海道、東北、北陸信越、四国、九州では水準を下げ、近畿はほぼ横ばいの見込みである。

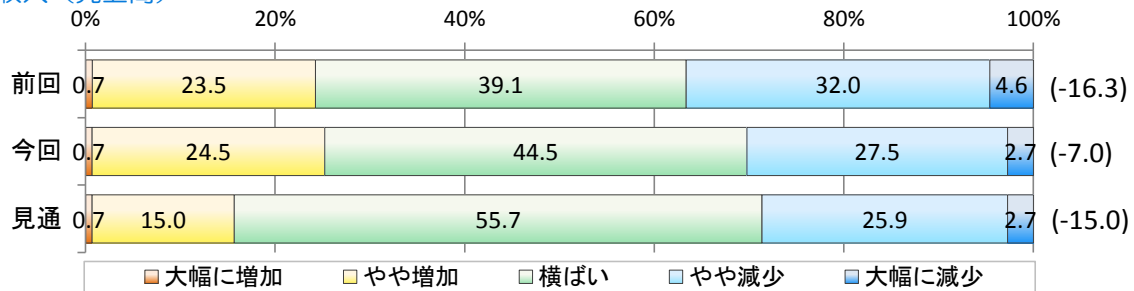
### 3. 一般貨物の概況

#### ■ 輸送数量



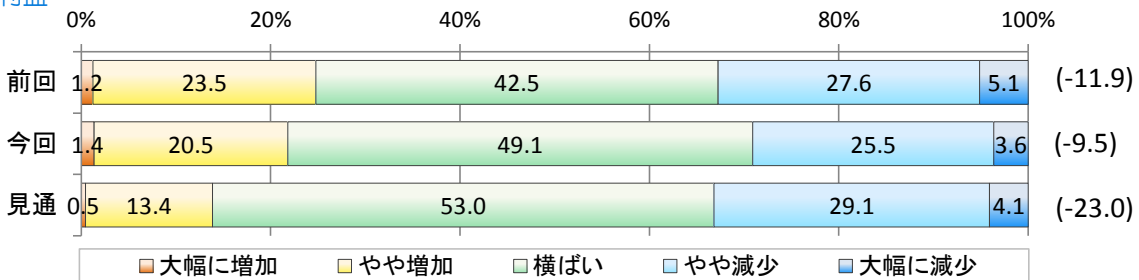
- ・ 前回より9.5ポイント改善した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

#### ■ 営業収入（売上高）



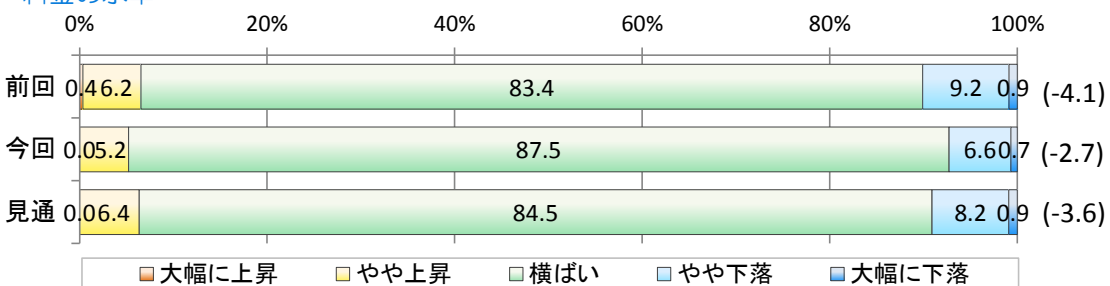
- ・ 前回より9.3ポイント改善した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

#### ■ 営業利益



- ・ 前回より2.4ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を下げる見込み。

#### ■ 運賃・料金の水準



- ・ 前回より1.4ポイント改善した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

#### 【調査の概要】

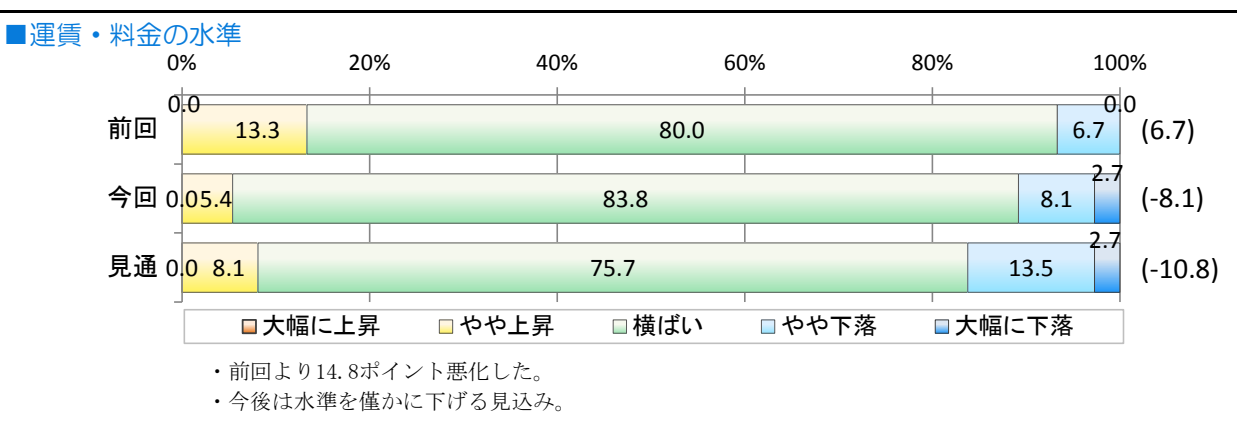
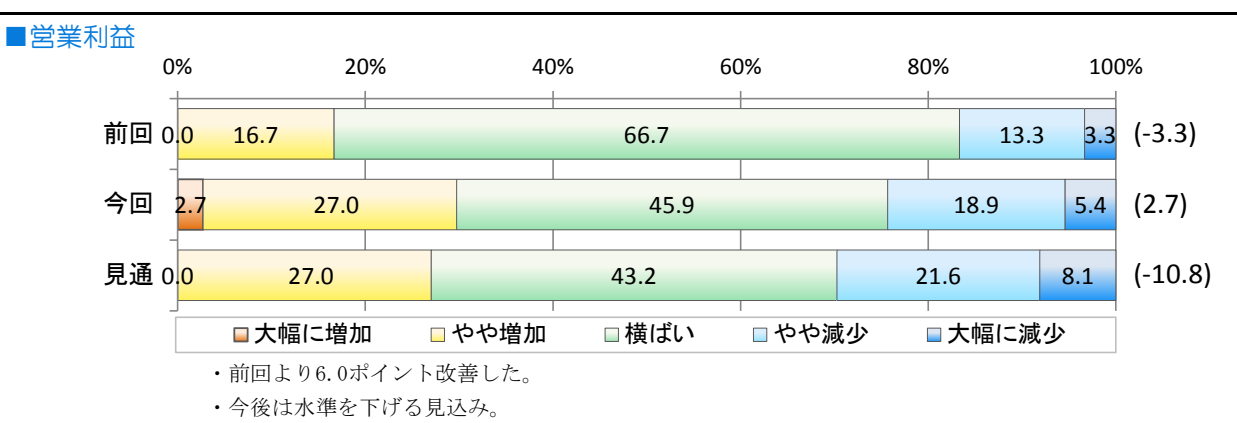
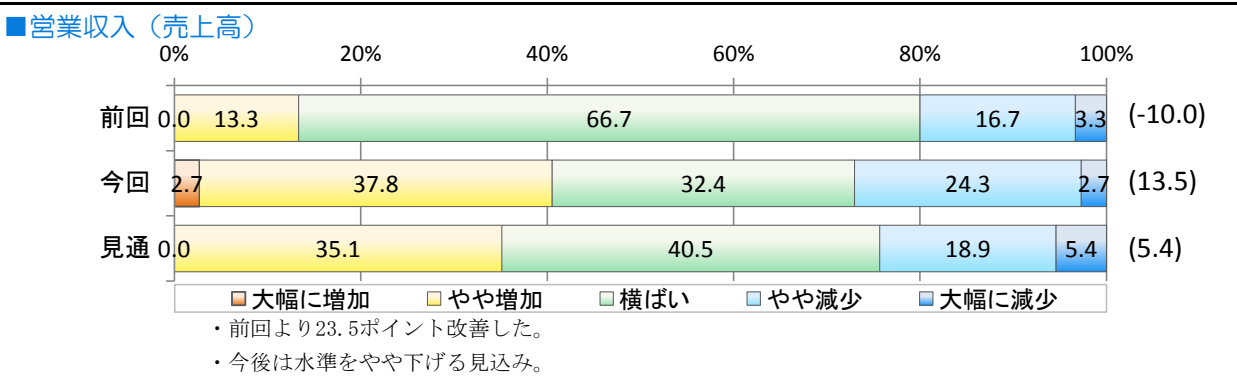
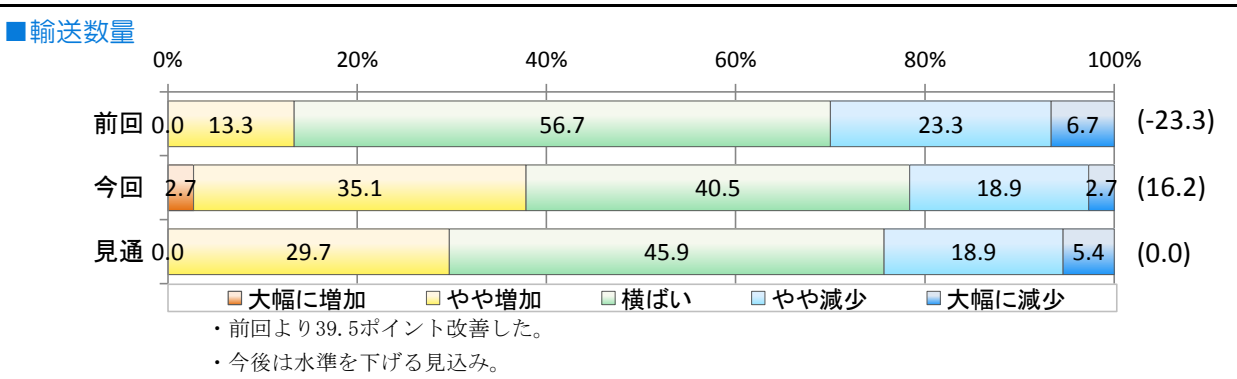
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第96回調査は、平成29年1月16日に、モニターに対して調査開始。平成29年1月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
70	440	454

※一部回答事業者の重複あり

#### 4. 特積貨物の概況

##### ① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回 (H28.7月～9月期) の状況、中段は今回 (H28.10月～12月期) の状況、下段は今後 (H29.1月～3月期) の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

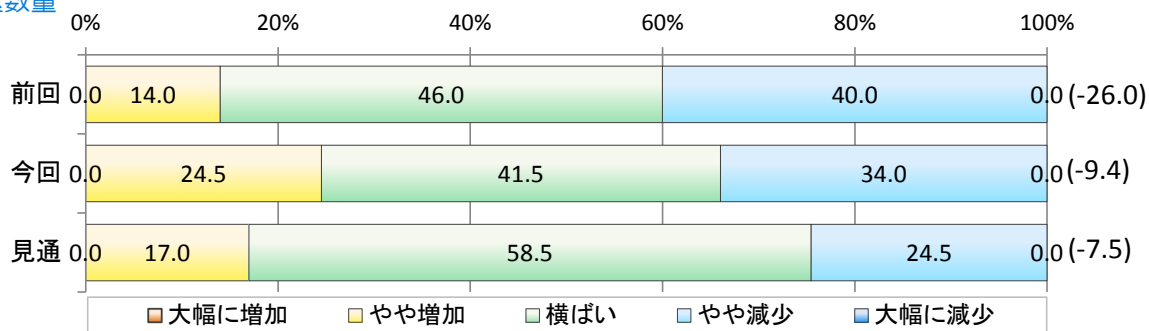
(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰～-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5 (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標 =  $\{(+2 \times a1) + (+1 \times a2) + (0 \times a3) + (-1 \times a4) + (-2 \times a5)\} \div A \times 100$

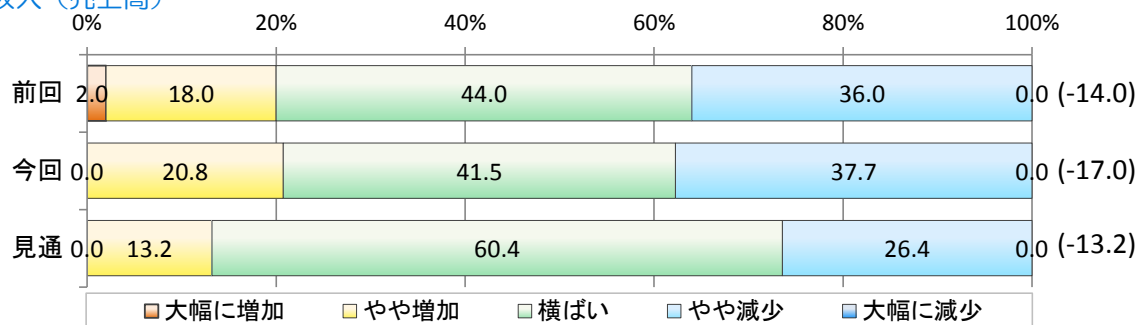
## ② 宅配以外の特積貨物

### ■ 輸送数量



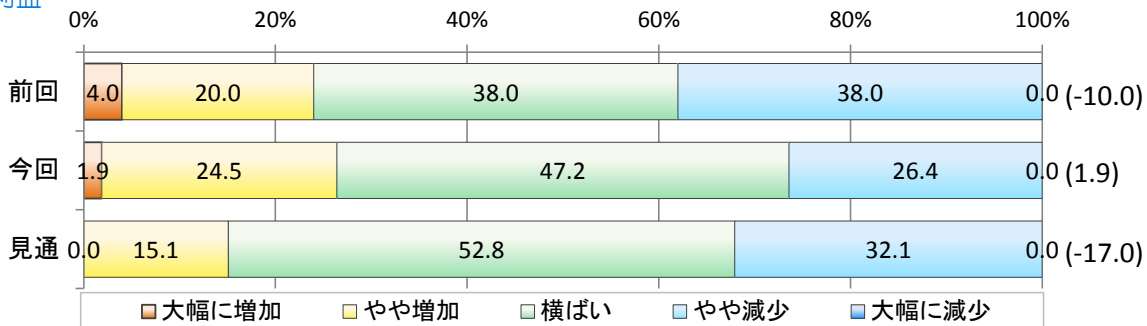
- ・前回より16.6ポイント改善した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

### ■ 営業収入 (売上高)



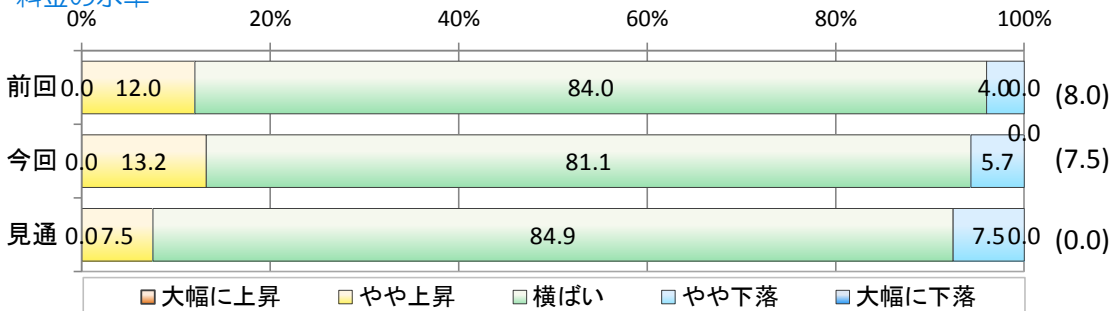
- ・前回より3.0ポイント悪化した。
- ・今後は水準を僅かに上げる見込み。

### ■ 営業利益



- ・前回より11.9ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

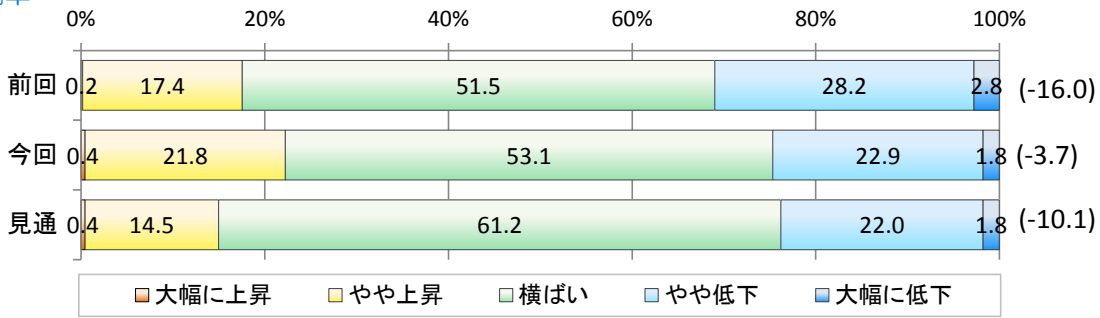
### ■ 運賃・料金の水準



- ・前回より0.5ポイント悪化した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

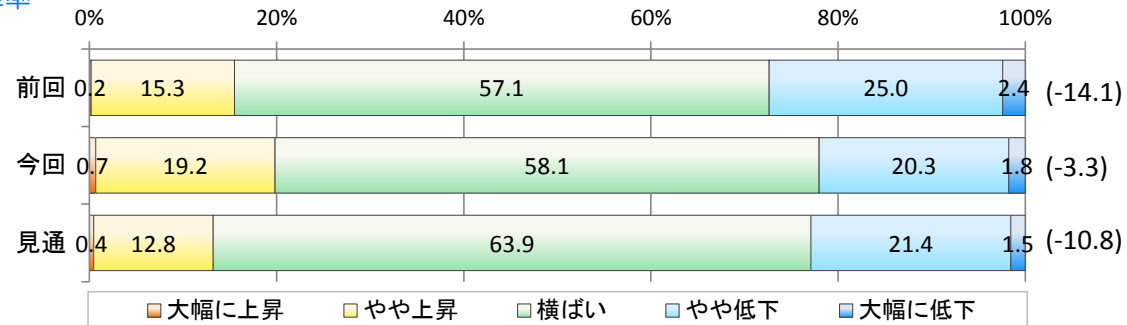
## 5. 共通の概況

### ■実働率



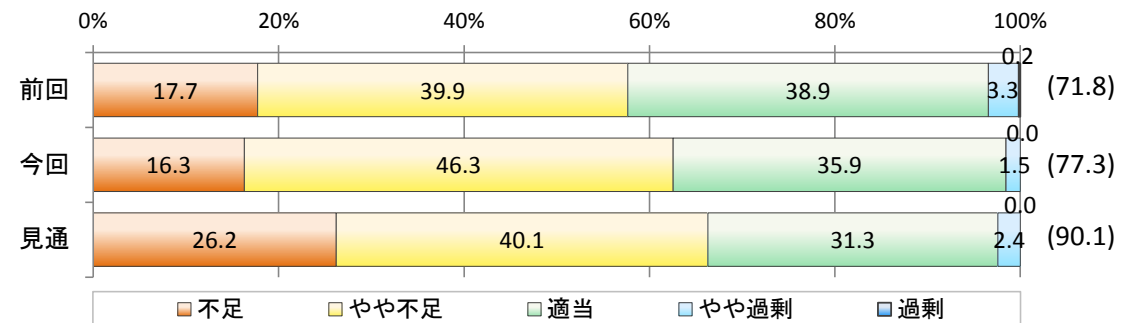
- ・前回より12.3ポイント改善した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

### ■実車率



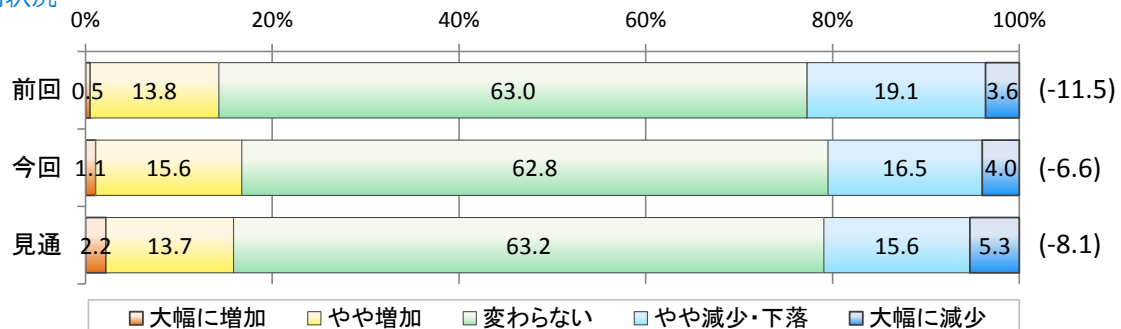
- ・前回より10.8ポイント改善した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

### ■雇用状況（労働力の過不足）<sup>(注4)</sup>



- ・前回より5.5ポイント上昇した(不足感が強くなった)。
- ・今後は水準を上げる見込み。

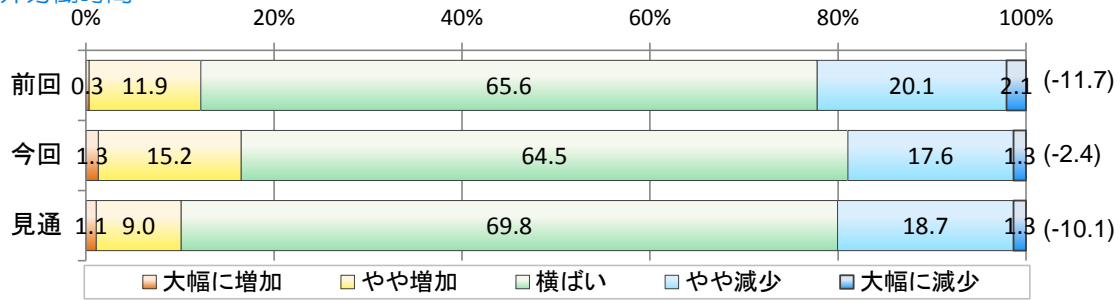
### ■採用状況



- ・前回より4.9ポイント増加した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

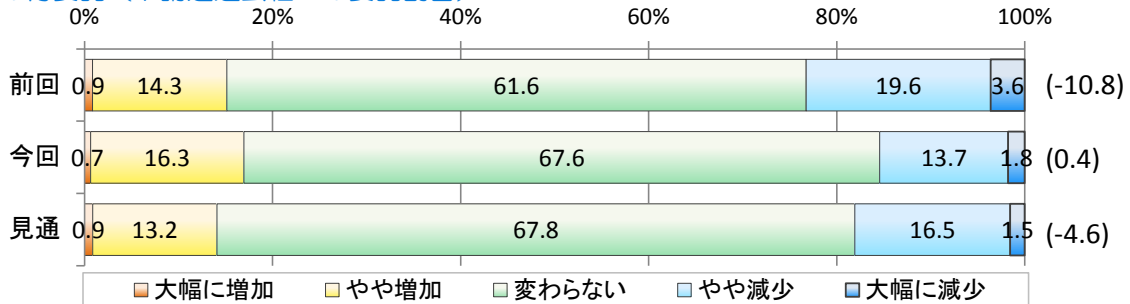
(注4) 雇用状況については、上段は前回(H28.7月～9月期)の状況、中段は今回(H28.10月～12月期)の状況、下段は今後(H29.1月～3月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を見通しは「前年同期比の見通し」を質問している。

### ■ 所定外労働時間



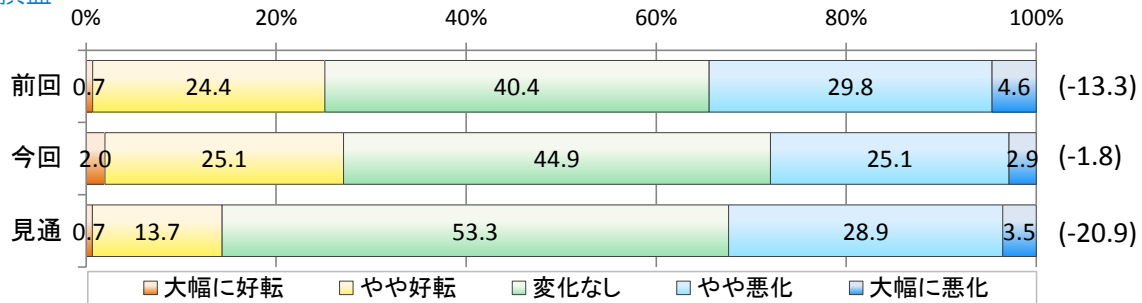
- ・前回より9.3ポイント増加した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

### ■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



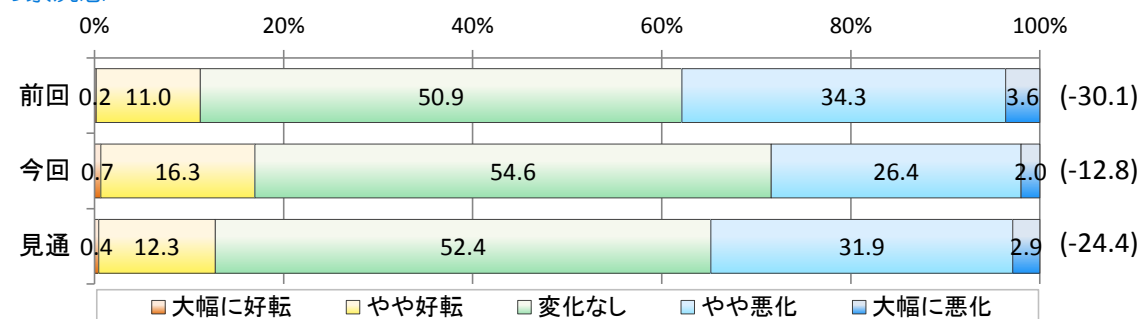
- ・前回より11.2ポイント増加した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

### ■ 経常損益



- ・前回より11.5ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

### ■ 業界の景況感



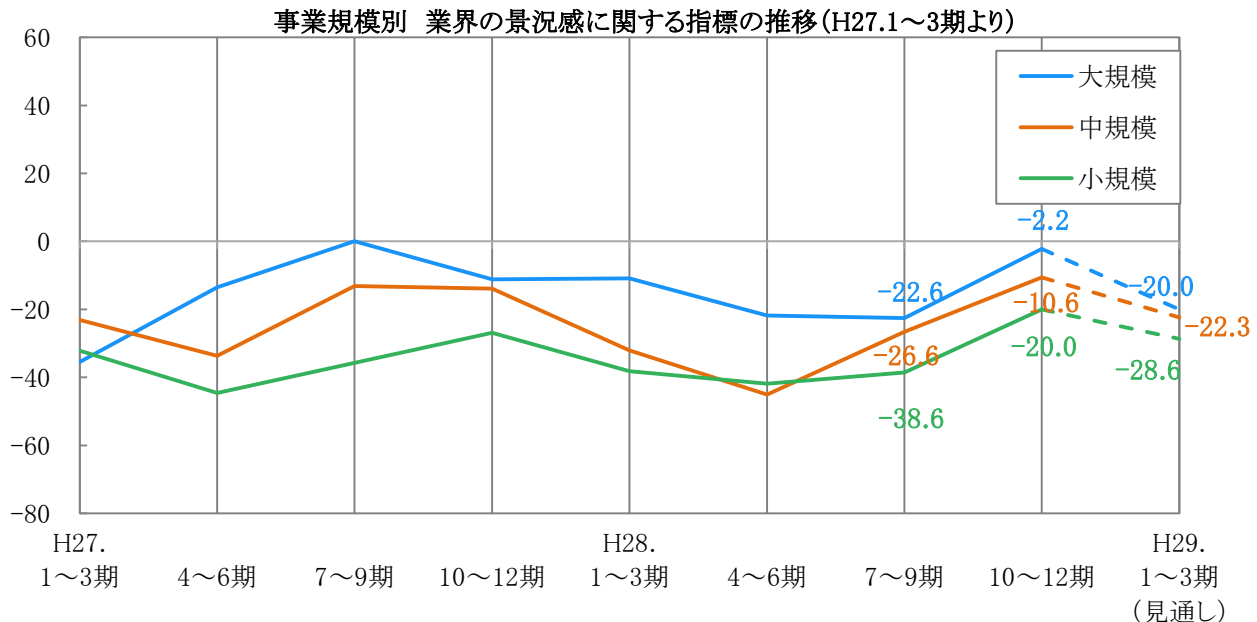
- ・前回より17.3ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。



## 6. 事業者特性別の特徴

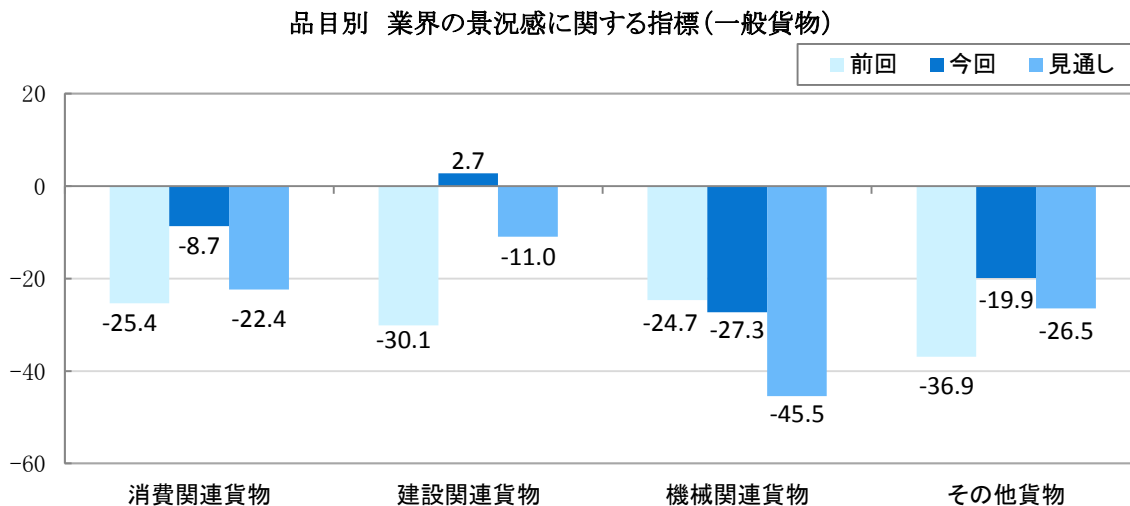
### ① 規模 (注5)

- ・事業規模別の景況感は前回と比べ、大規模事業者、中規模事業者、小規模事業者ともに改善している。
- ・今後は大規模事業者、中規模事業者は悪化、小規模事業者においてはやや悪化の見込みである。



### ② 品目 (注6)

- ・「消費関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感は水準を上げており、今後は下がる見込みである。
- ・「建設関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後は下がる見込みである。
- ・「機械関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を僅かに下げており、今後は下がる見込みである。
- ・「その他貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後はやや下がる見込みである。



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上      中規模事業者：21両以上100両以下      小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

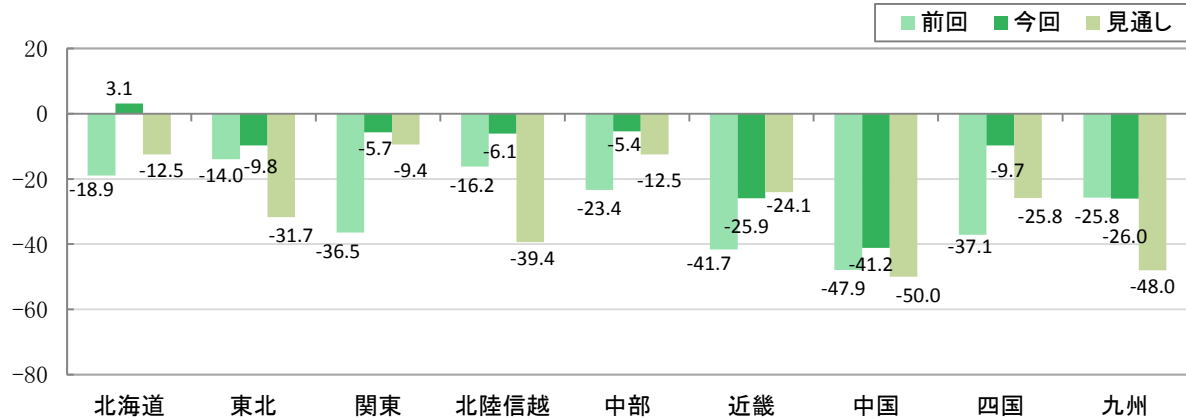
品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

### ③ 地域 (注7)

・一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、北海道、関東、北陸信越、中部、近畿、四国においては水準を上げている。

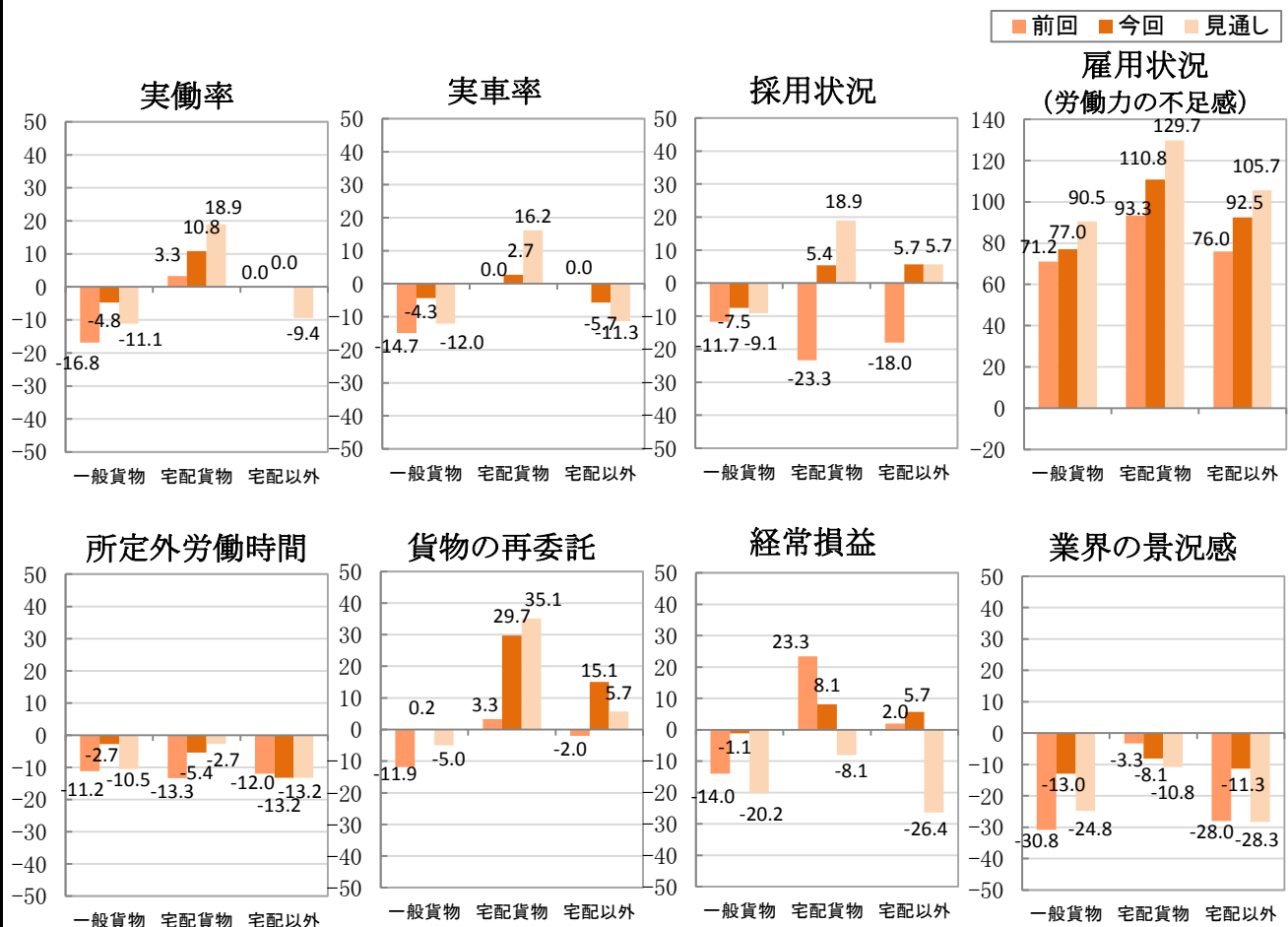
・今後は、北海道、東北、北陸信越、四国、九州では水準を下げ、近畿はほぼ横ばいの見込みである。

地域別 業界の景況感に関する指標 (一般貨物)



### ④ 事業形態別 (注8)

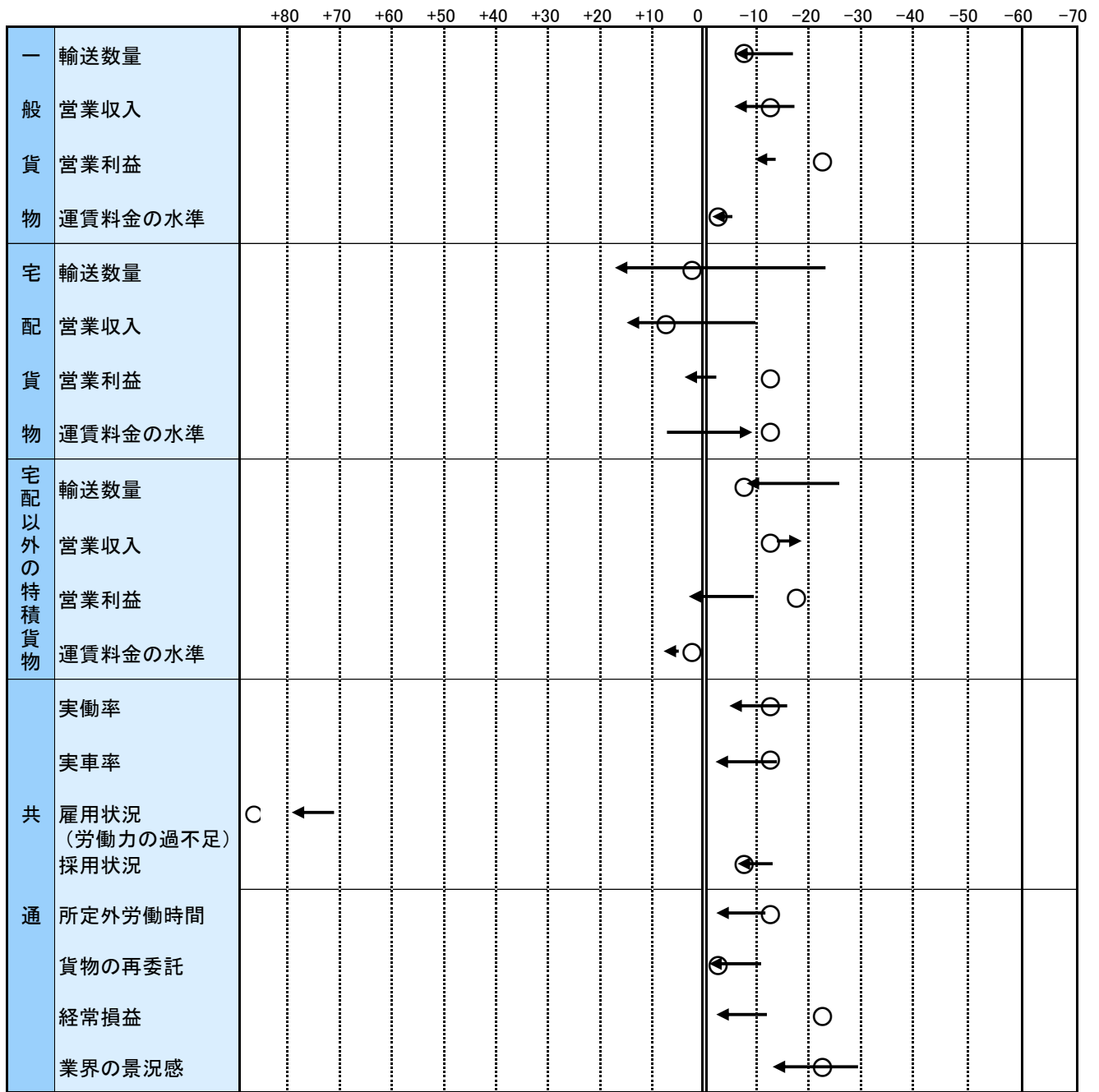
・事業形態別の景況感は、「一般貨物」「宅配以外」において水準を上げており、「宅配貨物」はやや水準を下げている。また、雇用状況は全ての区分で水準を上げ、人材不足感がより強くなっている。必要人員が確保できないと稼働車両数が低減する傾向があることから、貨物の再委託も全ての区分で水準を上げる結果となっている。



(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

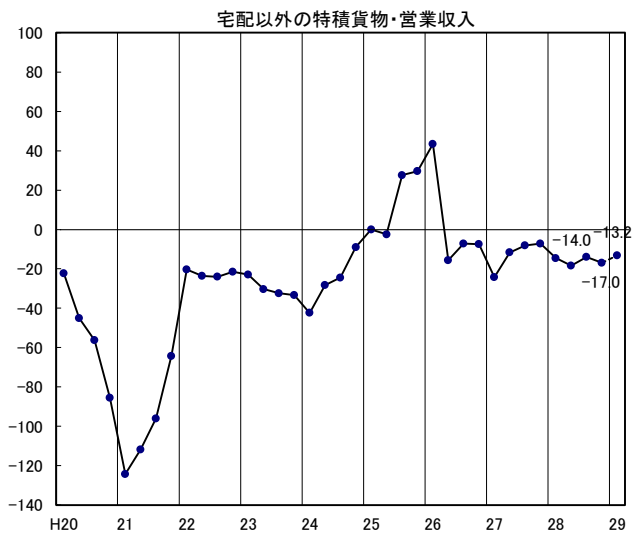
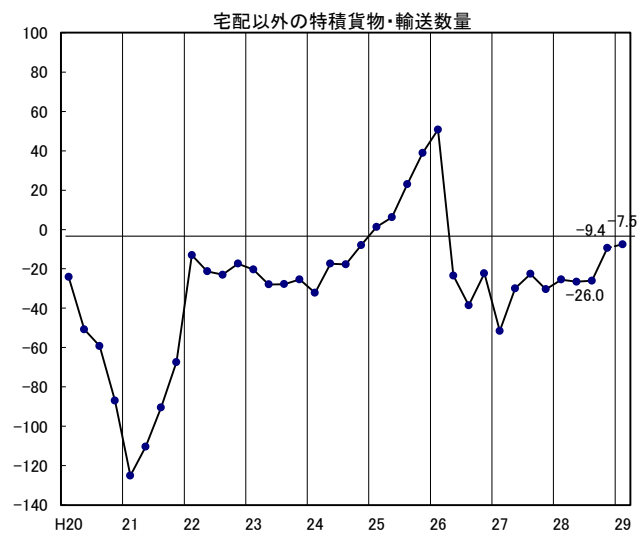
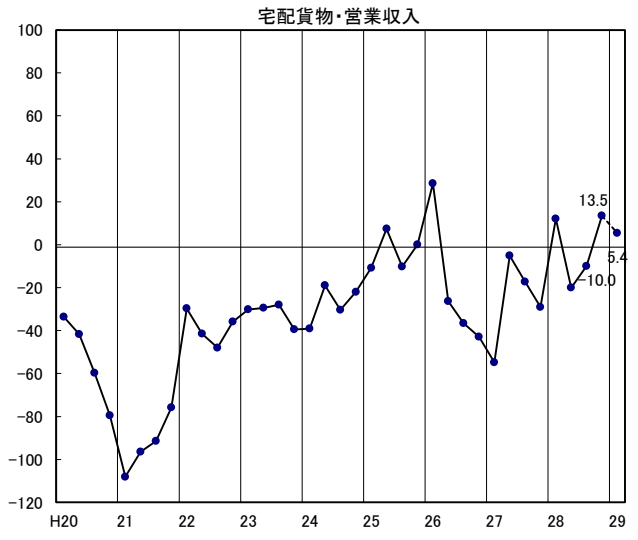
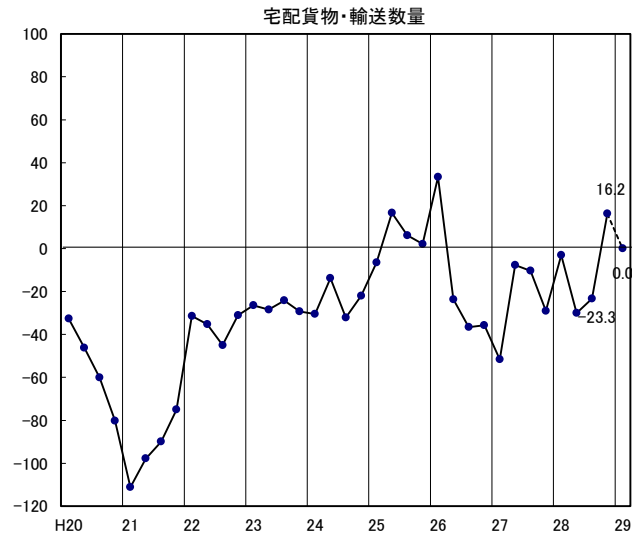
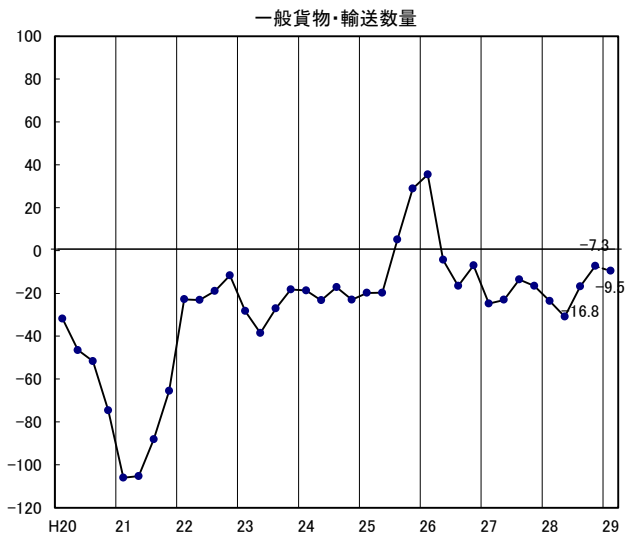
7. 業況判断指標の前回調査（平成28年7月～9月期）からの変化



凡例  
 矢元：7-9月期の実績  
 矢先：10-12月期の実績  
 白丸：1-3月期の見通

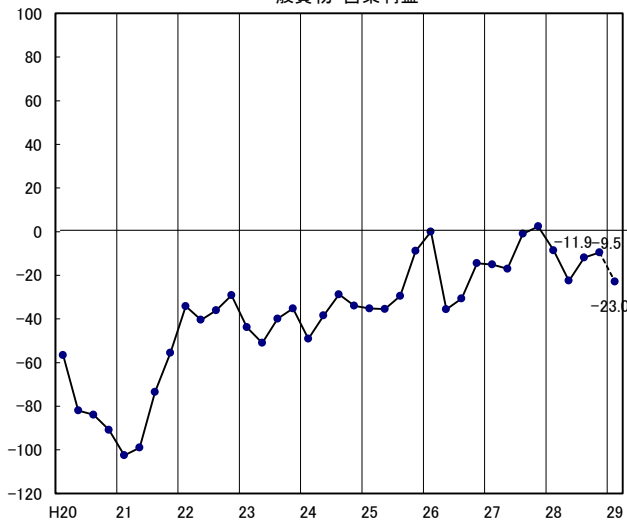
## 8. 業況判断指標の推移

平成20年～平成29年第1四半期見通し

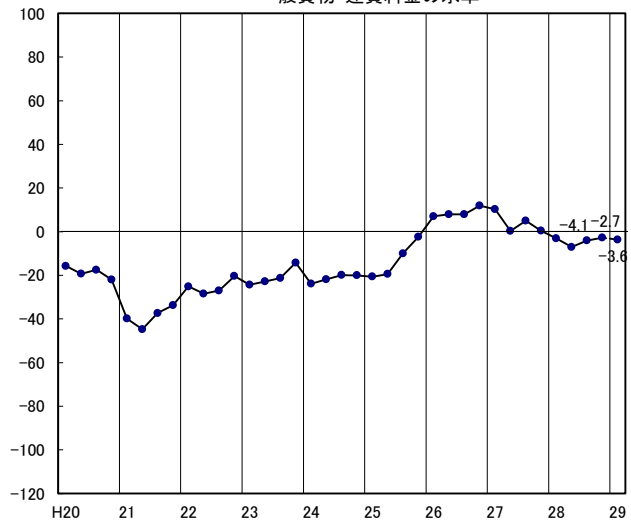


平成20年～平成29年第1四半期見通し

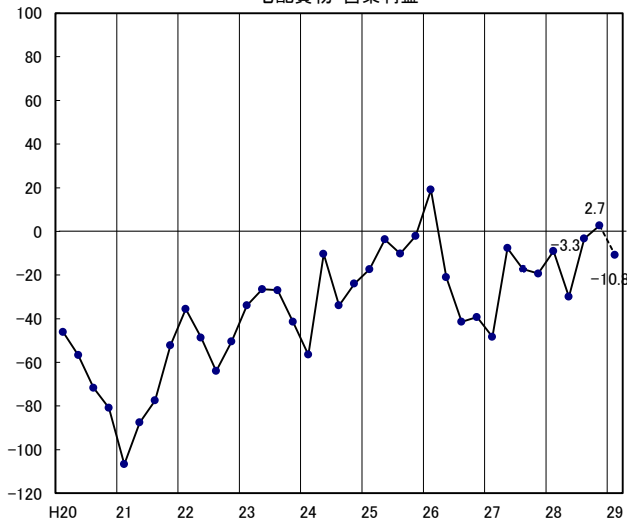
一般貨物・営業利益



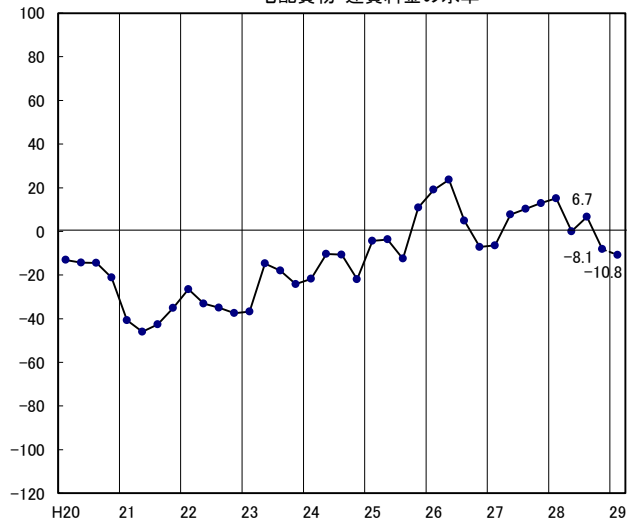
一般貨物・運賃料金の水準



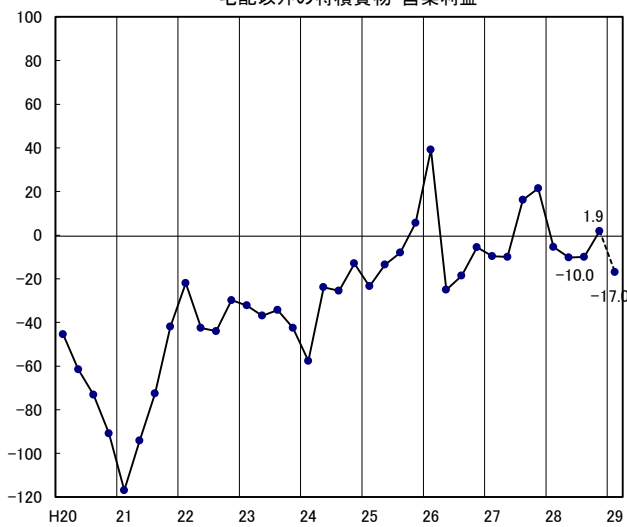
宅配貨物・営業利益



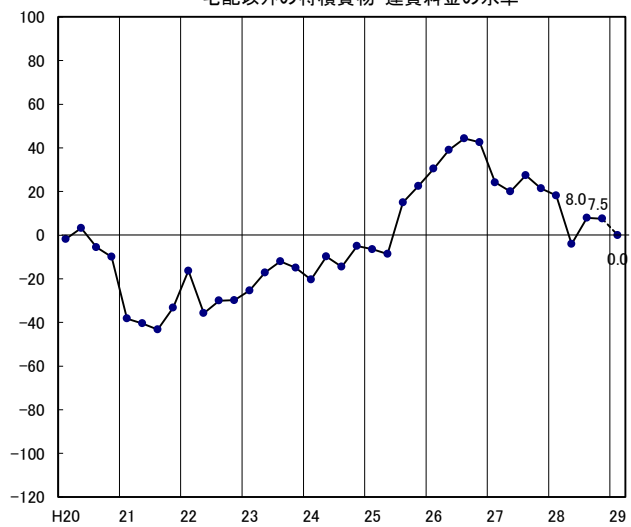
宅配貨物・運賃料金の水準



宅配以外の特積貨物・営業利益

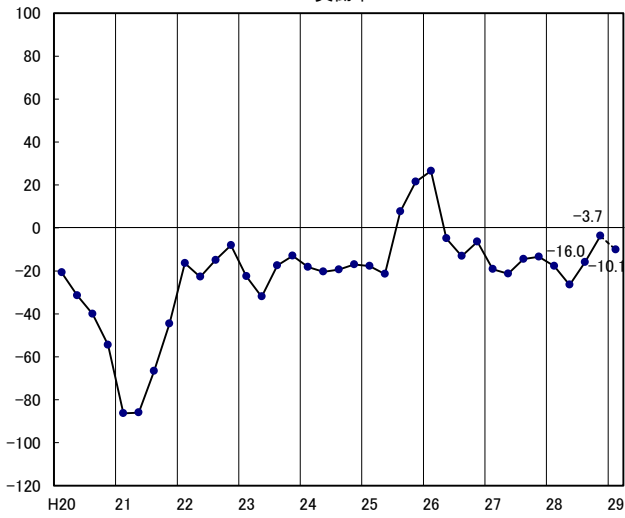


宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

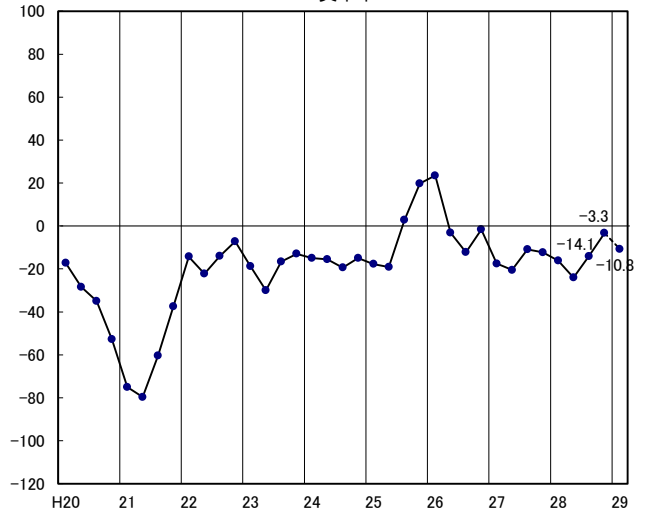


平成20年～平成29年第1四半期見通し

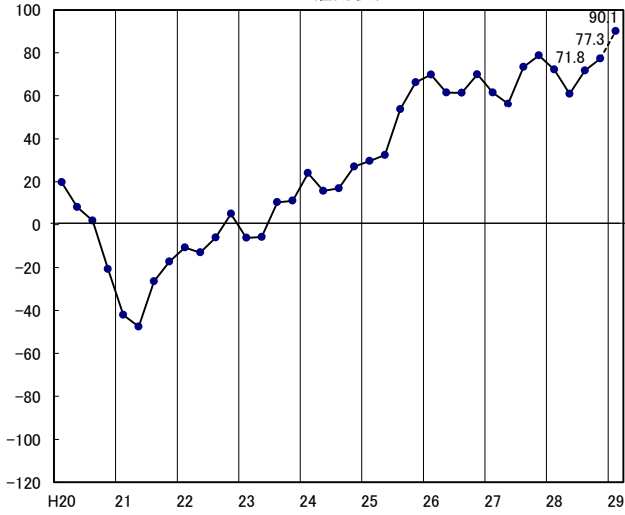
実働率



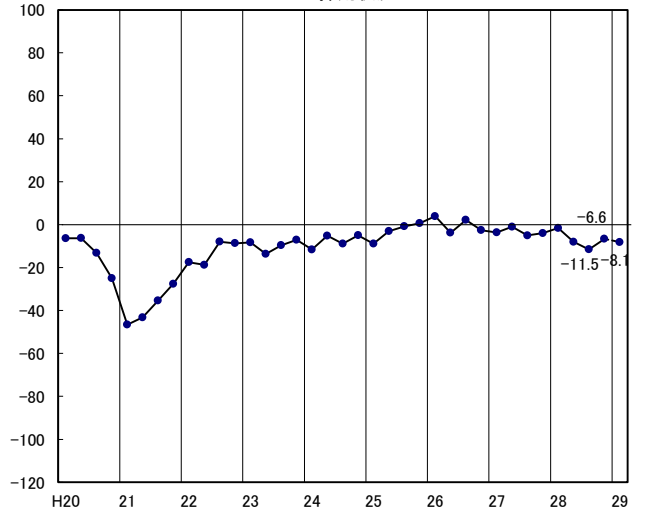
実車率



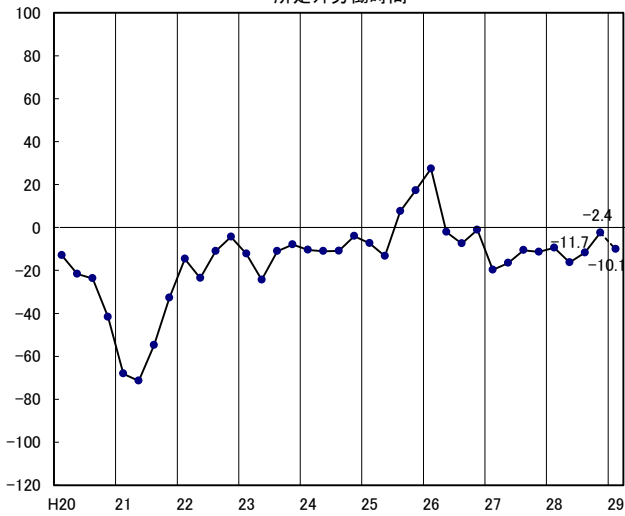
雇用状況



採用状況

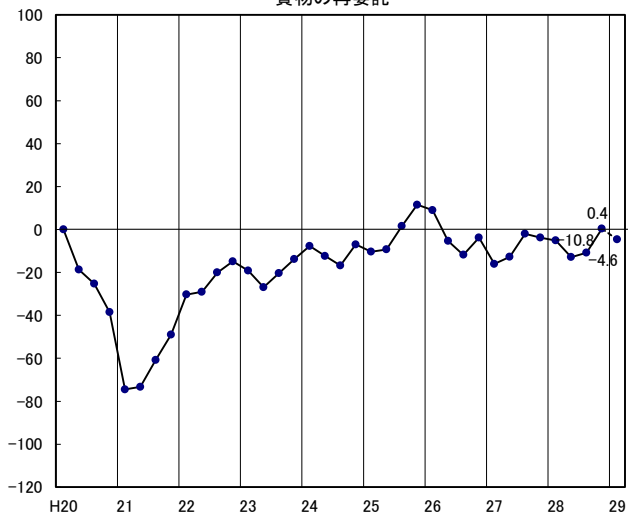


所定外労働時間

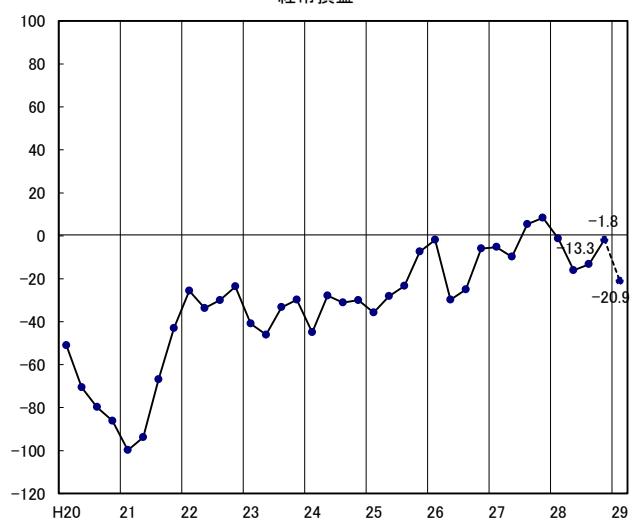


平成20年～平成29年第1四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

